



豊かな自然の中で育ち、平和な世界への思い熱く 原口敏彦これまでの歩み

川辺川と豊かな自然の中で過ごした子ども時代

原口敏彦さんは、一九六一年熊本県の相良村でたばこ農家の長男として生まれました。

川辺川が流れる豊かな自然の中で、伸び伸びと育ちました。しかし、学校に上がる頃には、家で飼っていた牛の世話など、忙しい両親の手伝いも。高学年になるにつれ、本好きの少年となり、図書室の本を読みあさりました。



地元の県立高校にはバイクで通学しました。原口さんは生徒会の副会長に選ばれ、体育祭、マラソン大会、文化祭などの行事に先頭になって取り組みました。球磨工業高校は生徒と先生方が平等の立場で話し合う、「生徒の自治」を大切にする学校でした。「高校での生徒会活動は、わたしの政治活動の原点のような気がします」と原口さんは語ります。



電波監理局で日本共産党と出会い、新たな道に

高校を卒業した原口さんは、九州電波監理局に就職して国家公務員となりました。労働組合に入り、職場の共産党員と出会いました。原口さんは戦前から戦争に反対して来た姿勢に共鳴し、日本共産党の一員となりました。

そして、長崎県に転勤してしばらくたってから、すすめられて日本民主青年同盟の専従職員として働くために、電波監理局を退職しました。



民青同盟の長崎県委員長として、何よりも力を入れたのは平和の運動でした。平和公園での署名活動、原水禁世界大会など青年のリーダーとして活躍しました。

民青同盟の活動の中で結ばれた一二美さんとの間には二人の子どもが生まれました。かけがえのない家族の存在が、原口さんの一番の活力源です。



日本共産党の若きリーダーとして

日本共産党長崎県委員会の役員になった原口さんは、政策委員長として、県民のくらしを守る先頭に立っています。

昨年、今年と政府交渉に向き、諫早湾干拓中止や被爆者救援などを政府に迫りました。

被爆地長崎の代表として、イラクへの自衛隊派兵反対や憲法九条をまもるために、いま全力投球です。

